

## 選手・監督への周知事項について

沖縄空手世界大会実行委員会事務局

### ・大会出場に関する注意点

#### (1) 服装の注意点

競技規程第2条（服装）及び下記チェックポイントに違反した状態で競技場へ入場した場合は減点となる。

#### 服装のチェックポイント

<p>1 空手着</p>	<p>①空手着は白色（古武道の場合は、黒色、茶色もOK）            ②男性は、空手着の下にTシャツ等を着るのは<b>NG</b>            ③女性は、空手着の下に白無地又は空手着と同色無地のTシャツ又はインナー（タンクトップ、スポーツブラ等）の着用が必須（つけていない場合は<b>NG</b>）            ④上着の長さは、腿（もも）の中程まで。            ⑤袖（そで）の長さは、最長で手首までとし、肘から手首の間の中ほどより短いのは<b>NG</b>。袖をまくるのも<b>NG</b>            ⑥ズボンは、脛（すね）の3分の2を覆うほどの長さ。くるぶしが隠れては<b>NG</b>。裾（すそ）をまくるのは<b>NG</b>            ⑦袖や裾を折り曲げる場合は、裏側に折り縫い付けること。</p>
<p>2 流会派章等のマーク、文字</p>	<p>①左胸のみ、流会派章、国旗、自国紋章、学校名はOK            ⇒県章（県のマーク）は、左胸でも<b>NG</b>            ②左胸以外（袖、裾、背中等）にマークや文字が入っている場合はすべて<b>NG</b>（裾に施された自身の氏名はOK）            ③空手着に加工されているメーカー商標ラベルはOK            ④布やテープで該当箇所を隠している場合はOK</p>
<p>3 帯</p>	<p>①実行委員会が配布する統一帯の他、赤又は白の紐を巻くこと。            ②統一帯以外の帯は<b>NG</b></p>
<p>4 その他</p>	<p>①アクセサリ（鉢巻き、ヘアクリップ、ピアス、指輪等）はすべて<b>NG</b>            ②磁気ネックレス、ミサンガも<b>NG</b>            ③マニキュア、ペディキュア、ネイル等爪への装飾はすべて<b>NG</b>            ④髪を結ぶための黒、茶色のゴムはOK            ⑤包帯の留め具等は医師の診断書があればOK。診断書の提出があるかは監査に確認。            ⑥サポーターやテーピング等、応急処置に係るものについては認める。            ⑦ヒジャブ等、宗教上・信仰上の理由により外すことが困難なものは、着用を認める。</p>

## (2) 選手の所作について

競技規程第6条（得点方式）により、選手は下記のとおり入場～退場までを行うものとする。定められた場所での「礼」「反転」のし忘れは減点とする。

### ① 入場～演武前（図1）

選手は、モニターに自身のゼッケン番号が表示されたら競技場境界線（×印）まで移動し、**正面に一礼（※1回目）**をした後、演武開始の位置につく。

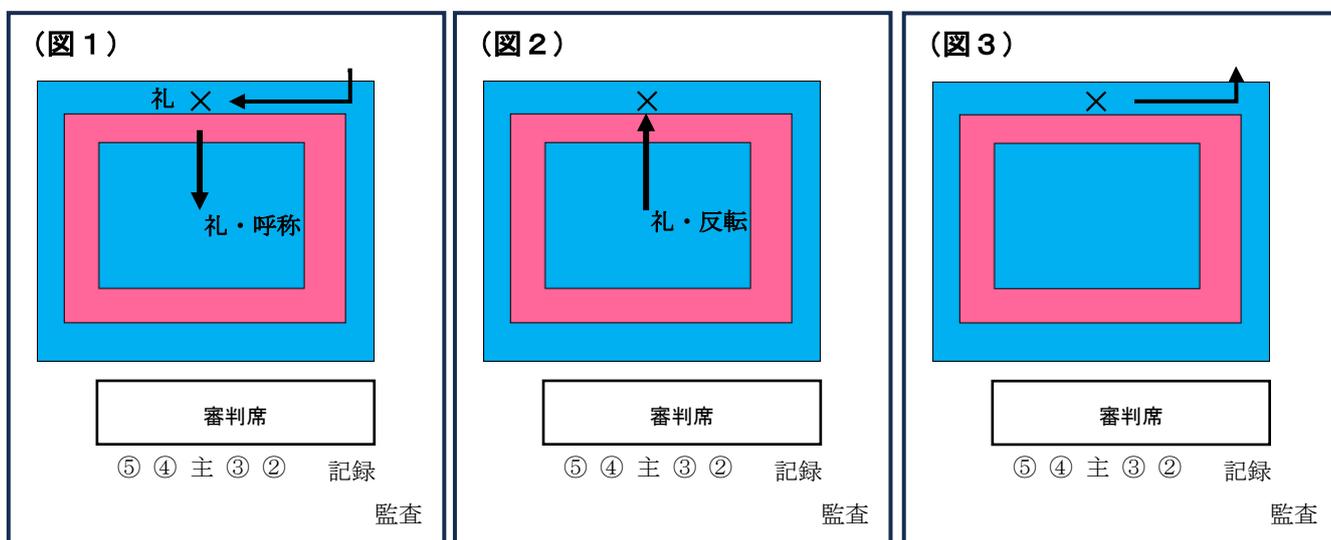
選手は、**演武開始位置についたら一礼（※2回目）**し、演武する**型の名称を呼称**した後、演武を開始する。（演武開始に係る主審の合図（笛）はないので、呼称後に演武を開始すること。）

### ② 演武後（図2）

選手は、**演武が終了したら一礼（※3回目）**し、**反転**して競技場を退出し、競技場境界線で判定を待つ。

### ③ 退場時（図3）

判定結果が表示されたら、選手は退場する。



## (3) 監督について

**監督は、競技規程第2条（服装）、審判規程第9条（異議申立）及び第10条（その他）を順守し競技に参加すること。**

### ① 監督の服装

監督は、競技の間、空手着を着用し、腕章をしなければならない。

### ② 異議申立について

ア 審判団の判定（採点）に対し異議申立することはできない。

イ 本規程及び競技規程に違反していることが疑われる場合は、監督のみが監査に対し、異議申立をすることができる。

ウ 監督は、原則として、判定が出る前に異議申立をしなければならない。ただし、判定が出た後直ちに異議申立がされた場合は、監査の判断により申立を受けることができる。

エ 競技者の監督、保護者等が暴言、暴行その他不穏当な言動で競技の進行を妨害し若しくは大会の威信を著しく害した場合は、審判団が協議の上、当該言動を行った者に対する厳重注意、退場、競技者の失格等必要な措置を講ずる。